

発行 1999.9.13 21 リハ研事務局
藤沢市善行 7-5-4-105
TEL 0466 81 5392 FAX 0466 81 8815
e-mail 21reha@civilnet.org

8月31日午後6:30からリハビリエイド社会
議室において、第4回総会が開催された。

顧問滝沢恭子から経過を踏まえた開会挨拶、福
井園彦会長から、挨拶と痙性の抑制について仮説
が発表された。

続いて運営委員会報告として、副会長運営委員
の慶応大学遠藤敏から国際 PT 学会と下肢運動器
の運動範囲について、北里大学長澤弘から科学技
術庁の研究費申請以来の経過と機器開発について、
昭島市在宅介護支援センター牧田光代から評価論
文について説明があった。さらに運営委員の社
会医学技術学院久保田京子から次期出版について、
事務局長リハビリエイド滝沢茂男から補足説明と
欠席された副会長岡本病院岡本雄三の発表（地域
ケアの核となるために）代読があり、引き続き自
己紹介・発表として、新会員川崎医科大学附属川
崎病院森田能子から歩行器利用について、岡本病
院石丸知二から本リハシステム導入について、す
ずしろの里米田睦男から在宅リハについて、運営
委員事務局次長・リハビリエイド青木信夫の挨拶
があった。

また、オブザーバーの神奈川県産業技術総合研究
所増田信次から機器開発について、通商産業省工
業技術院・電子技術総合研究所知能システム部小
野栄一の挨拶があり、欠席のジェットロイスタンプ
ール尾澤潤一からの伝言披露があった。

講評と提案に移り、顧問金井司郎及び副会長木
島整形外科医院木島英夫から努力を謝すとのあい
さつがあった。顧問日本医科大学教授木村哲彦か
ら本研究に係わる運動の名称を

the motivative exercise と定めた経緯説明
があった。顧問滝沢恭子からアンケート、評価、
現状について報告があった。

欠席会員・副会長東海大学神内擴行、横浜リハ
センター秋田裕、聖マリアンナ大学網本和、藤沢
市民病院斎藤幸広、聖マリアンナ大学武田秀和、
長岡病院長岡健太郎、神奈川リハビリテーション病院富田
昌夫。

討議では **the motivative exercise** により神経

伝達物質の発生があり、神経伝達経路の発振状態
（痙性）が抑制されるのではないかという仮説を
中心に議論が行われた。今後これを非侵襲的に確
認できる機器の開発を目指すこと、タキザワ式と
した72歳・現役理学療法士のノウハウを蓄積で
きる機器を開発し、一般化できる様研究を進める
こと、これに付随し、身体状況、訓練、評価を結
合した指標の作成研究、ノウハウの移転等につい
ても討議があった。

続いて次年度関係事項に移った。

顧問に福井園彦（前会長・老人保健施設湘南の
丘）、加倉井周一（北里大学教授）の両先生が新た
にご就任下さった。

会長に木島英夫（前副会長）、副会長に木村哲彦
（前顧問）が就任された。新人事は以上であり他
の役員には変更がなかった。

新会長木島英夫からご挨拶があった。「2025年
で16%弱と想定される要介護老人の発生を10%
以下にする。」を研究目標にしようという内容で
あった。

運営委員会から以下、研究推進について発表が
あった。

- I・1対多のリハビリテーションの研究として、
①タキザワ式リハプログラムの有効性の検証。②
評価システムの提案と内容の研究。③寝たきりか
らの身体状況、訓練内容、評価の統合について。
II・器具開発、PTの業務への影響の研究。
III・発表。①経験報告書籍の発行。②学術的な書
籍の発行準備。③論文の発表。④研究費の申請。
IV・ソリ付き歩行器利用の有効性の研究。

その後森田会員から、介護者の介護度の変化を
調査しようとの提案があり、調査表の作成を滝沢
運営委員と共に行うこととした。これは会議後の
ことで参加メンバーを募集中である。

顧問金井司郎から研究推進について期待を込め
た閉会挨拶があった。

参加歓迎
公開研究会の開催（来年度）
開催場所： 日本医科大学
日時： 2000年8月5日
土曜日午後1:30より